

C. 寄生虫による皮膚疾患 diseases caused by parasitic worms

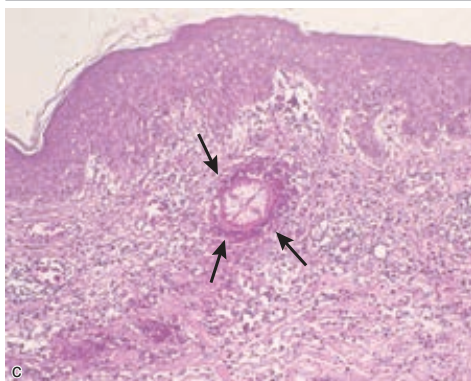
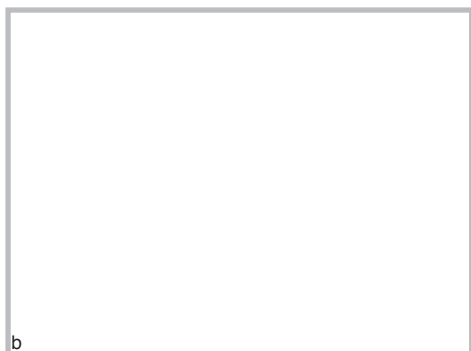
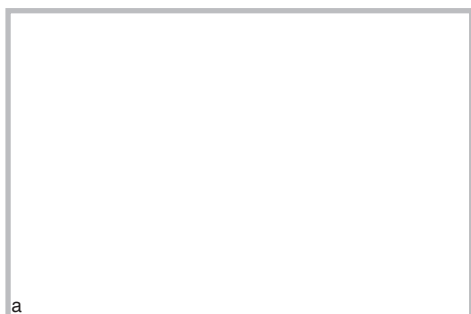


図 28.16 クリーピング病 (creeping eruption)
a, b: 寄生幼虫が皮内を線状に移動して生じる。c: 病理組織像 (皮膚寄生幼虫, 矢印)。

1. クリーピング病 creeping eruption ★

同義語：皮膚幼虫移行症 (cutaneous larva migrans)

皮膚寄生幼虫が皮内を移動し、皮膚に爬行性の線状皮疹 (creeping eruption) を生じるものをいう (図 28.16)。幼虫を保持する川魚などを生食することで感染する。原因となる寄生虫としては顎口虫 (ドジョウ, 川魚, カエル) や、マンソン孤虫 (両生類, 家禽肉), 旋尾線虫 (スッポン, イカ) などがある。また、熱帯の砂浜を裸足で歩くなどして、鉤虫の幼虫が直接皮膚に接触して侵入する場合もある。

川魚などを生食した数週から数か月後に、体幹や大腿に局限性浮腫や硬結を生じる。発熱や腹痛などの全身症状を伴うことがある。皮膚寄生幼虫は、移動出没を繰り返し、線状皮疹を生じる。治療には診断を兼ねた虫体摘出を行う。アルベンダゾールやイベルメクチンの有用性が注目されている。

2. リンパ系フィラリア症 lymphatic filariasis ★

バンクロフト糸状虫 *Wuchereria bancrofti*, マレー糸状虫 *Brugia malayi* などを蚊が媒介する。熱帯, 亜熱帯地域に広く分布しているが、日本では現在ほとんどない。体内に侵入した幼虫はリンパ管に移動し、数か月で成虫になる。発熱, リンパ節炎, リンパ管炎, 副睾丸炎などの急性症状を経て, リンパ浮腫, 陰囊水腫, 象皮症へと発展する (11 章 p.189 参照)。ジェチルカルバマジンやイベルメクチンの投与を行う。